

上越市立名立中学校 学校だより



希望が丘

教育目標 「 自律 尊重 創造 」

《第10号》

上越市立名立中学校

電 話 025-537-2204

F a x 025-537-2214

(令和5年3月23日発行)

上越市立名立中学校 第44回 卒業証書授与式



3月3日(金)、第44回卒業証書授与式を挙行了しました。

ご来賓をお招きすることはできませんでしたが、3年生の保護者の皆様からお出でいただきました。在校生と保護者の皆様が見守る中、卒業生は、一人ひとり名前を呼ばれると、大きな声で堂々と返事をして卒業証書を受け取りました。保護者を代表してPTA会長様からご祝辞と卒業記念品の授与をしていただき、また、多くの方々からたくさんのお祝いメッセージを頂戴しました。後半の第2部では入学前のあどけない顔や過去の行事の様子など、卒業生の懐かしい写真の数々により3年間を振り返りました。新生徒会長の「贈る言葉」と、卒業生代表である生徒会正副会長の3名の「旅立ちの言葉」が述べられると、会場に温かい雰囲気広がりました。今年度は卒業記念合唱を行うことができ、卒業生が心を込めて「群青」を歌いました。合唱の余韻の残る中、13名の卒業生は在校生に見送られながら名立中学校を巣立っていきました。

卒業生の皆さん、保護者の皆様、誠におめでとうございました。3月16日の木曜日には公立高校入試の合格発表があり、全員の進路が決定しました。中学校を巣立ち、これからはさらに広い世界で大きく羽ばたいてほしいと思います。

式 辞 校長 網谷 清志

今週に入り、ようやく春の気配が感じられるようになりました。校舎南側の梅の花も咲き誇り、卒業生の皆さんの門出を祝ってくれています。

この佳き日に我が名立中学校を卒業される卒業生の皆さん、誠におめでとうございます。保護者の皆様、長引くコロナ禍で大変な状況の中でしたが、こうしてお子様のご卒業を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

私は卒業生の皆さんとは3年間お付き合いしました。13名一人一人の個性が光り輝く、素晴らしい生徒たちでした。ここで、卒業生の歩みを振り返ってみます。

名立中学校に入学するときには、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月1日～6日までと4月22日～5月10日までの2回、臨時休校になりました。さらに、1年生の3学期、1月12日～19日まで大雪による臨時休校がありました。1年間に3回の臨時休校は、誰もが初めて経験することでした。全校生徒と教職員が、当たり前で学校生活を送れるありがたさを実感しました。授業の遅れが心配されましたが、皆さんが集中力を高めた結果、1年生の教育課程をすべて修了することができました。2年生のときは、中堅学年として3年生を支え、1年生に優しく接する頼もしい先輩でした。

そして今年度は最上級生として、雨で1日延期の体育祭や、3年ぶりに保護者を迎えての音楽祭において、13名という少ない人数の中、一人が何役も兼ねて成功させました。知恵を出し、工夫して感染拡大防止に努めながら、学校行事を成功させてきました。

私が忘れられないのは、ここ2年、修学旅行の行き先は佐渡でしたが、去年は東北を訪ねたことです。私の教員人生でも最初で最後の東北の旅でした。みんなで南三陸町の防災対策庁舎跡で深い祈りを捧げました。南三陸町の住民の中では、「津波の悲惨さを後世に語り継ぐために残すべきだ」「いや、見るたびにつらい思いがよみがえる」と様々な意見があったそうですが、結局2031年までは宮城県が管理・保存するそうです。卒業生の皆さんが23歳になるまでです。今年も間もなく、東日本大震災から12年目、ちょうど干支が一回りしますが、3月11日が来ます。卒業生の皆さんはきっと、今年は今までと違った気持ちでその日を迎えることでしょう。

さて、中学校卒業に当たり、皆さんと確認し合いたいことがあります。それは、去年もこの卒業式で述べましたが、昨年度に改定した教育目標のことです。卒業生の皆さんは2年間、新しい教育目標の達成に向けて懸命に努力してきました。

「自律」とは、自分で考え、判断し、決定し、行動することです。卒業生の皆さんは、進学先の高校を決めるときに経験しましたね。「尊重」とは、自分と周りの違いを理解し、自他を尊重することです。卒業生の皆さんは、「誰一人取り残さない生徒会」を目指して活動してきました。それが「尊重」です。「創造」とは、豊かな発想で新たな価値を創造することです。卒業生の皆さんが、4月から新しい環境で新しい生活を創っていくことにあたります。

現実の社会を見てみると、生命の尊厳を脅かす犯罪行為や、ロシアのウクライナへの軍事侵攻など、まったく「自律」していない人たち、また、命を「尊重」しない人たちの行動が毎日のように報道されています。私は胸が押しつぶされる思いです。このように矛盾に満ちた社会を生き抜くためには、これらの3つの目標



「自律 尊重 創造」の心がますます重要になってきます。卒業生の皆さんは、高校生になっても、大学生、社会人になっても、この3つの目標を常に胸に持ち、成長し続けてほしいと願っています。

卒業生の皆さん、4月からは高校生活が始まります。一クラスの数も約40人になり、最初はクラスの人たちの顔と名前を覚えるのに苦労するかもしれません。新しい友だちをつくる近道はズバリ「挨拶」です。挨拶から会話が生まれ、親しくなることができます。

ここで、名立中を昨年卒業し、今高校1年生のOさんが、高校生活について書いた文章の一部を紹介します。昨年8月に新聞に掲載された投書です。

「私は今、高校生活がとても楽しいです。その理由は、私に話し掛けてくれる友だちがいるからです。私の卒業した名立中学校は小さくて、ほとんどの人が宝田小学校から一緒の人たちでした。そんな小さな学校を卒業して、たくさんの方がいる高校へ入学をしました。小さい学校から出てきたこともあり、何を話せば良いのか、どうすれば友だちになれるのかなど、ずっと考えていました。

ある日、授業のことで隣の人が話し掛けてくれました。その時とても嬉しかったです。それからたくさん話そうになりました。そして、他の人たちともどんどん話そうになり、たくさんの人たちと仲良くなることができました。」あとの文は省略します。この投書の全文は、校長室前の廊下に掲示してあります。

進学先の高校で、初対面の方が多く中で、はじめは勇気がいるかもしれませんが、何回か繰り返せば、自然に挨拶と会話ができるようになります。卒業生の皆さん、是非チャレンジしてください。

さて、卒業生の保護者の皆様、本日は立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、感慨もひとしおのことでしょう。保護者の皆様は、9年間にわたって、日本国憲法に定められた「お子様に教育を受けさせる義務」を果たされ、今日この日を迎えました。この間のご苦労に心から敬意を表します。

4月からは義務教育ではありません。お子様が自分で決めた道を、自分の責任で歩いていくこととなります。とはいえ、まだまだ悩むことも多いかと思います。どうか、お子様が親元を巣立つその日まで、さらに深い愛情を注いでいただきたくお願い申し上げます。私ども名立中学校の教職員も、お子様のさらなる成長を心から応援してまいります。

それでは、卒業生の皆さんの新しい旅立ちにあたり、本日ご臨席の皆様のますますのご健康とご活躍を重ねてお祈り申し上げ、式辞とします。

祝 辞 PTA会長 様

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。PTAを代表いたしまして一言お祝いの言葉を申し上げます。また、ご臨席いただきました保護者の皆様に対しまして、重ねてお祝い申し上げます。生徒たちが無事、中学三年間の学業を務め、この名立中学校を巣立ち羽ばたいてゆく今日の良き日を迎えられるのも、熱心にご指導くださった校長先生を始め、教職員の方々のおかげと心より感謝しています。



コロナ禍で様々な行事の制限が続く中、それでも何かを成し遂げようと目標を掲げ勉強や部活に取り組んだ事や、仲間たちと切磋琢磨したことなど色々とあるでしょう。しかしその全てが成功したわけでは無いと思います。「頑張っても結果が…」なんて経験ありませんでしたか？

このような経験を繰り返したりしてしまうと「努力してもムダじゃん！」と感じてしまい、投げ出したり、諦めたりしてしまいますよね。実はそれは大きな間違いで、努力で皆が手にするのは「成功」ではなく「成長」だと思います。成功するかしないかは運や才能だと思いますが、成長するかしないかは一人ひとりの努力次第だという事を忘れないで覚えていてください。

四月からはそれぞれの道に進んでいくことになります。この名立中学校で互いに絆を深めた仲間たちがいることをこれから先もずっと忘れないでください。先生方も私たち保護者も、新しい道へ進んでゆく皆さんを応援しています。最後に、卒業生の皆さんの健康と今後の成長を祈念し、祝辞とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。

贈る言葉

在校生代表 生徒会長



美しい雪景色から、桜の咲く暖かな季節となりました。このようなよき日に、名立中学校を卒業される13名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今、皆さんはこの名立中学校での三年間を、どのように振り返っているのでしょうか。卒業生は13人という少人数ですが、チームワークが良く、一つ一つの学校行事や委員会活動、そして部活動で、私たち下級生のため、名立中学校活性化のために取り組んでこられた姿は、とても力強いものでした。

体育祭では、今までよりも良い体育祭にしようと、様々な企画や応援を考え、夏休み前から一生懸命準備を進めてくださった姿が印象的でした。当日は、紅軍、青軍どちらも一人一人が互いに協力し合い、三年生にリードされながら、白熱した体育祭となりました。

音楽祭では、三年ぶりに保護者の皆様に見守られた中での合唱をすることができました。日々お世話になっている人たちへの感謝の気持ちを伝えられるよう、心のこもった合唱を響かせている姿は、とても素敵で、一番人数が少ない学年なのに、卒業生の奏でたハーモニーは迫力があり、とても感動しました。

部活動では、私たち下級生に、様々な場面でアドバイスや声かけをしてくださり、良いチームワークを作ってくださいました。また、いつも皆を笑顔にさせてくださり、楽しい部活動となりました。

委員会や絆班での活動では、リーダーとして皆をまとめ、私たちにたくさんのことを教えてくださいました。臨機応変に行動し、率先して活動している姿を今までたくさん見てきました。そのような姿に、私たち下級生も刺激され、卒業生のようになろうと努力してきた一年間でした。

私たちはこれまで、卒業生の皆さんの背中を追い続け、たくさんのことを学ぶことができました。三年間の中でコロナの影響により、思うようにできなかった活動や行事がいくつもあったことでしょう。ですが卒業生は、いつも笑顔を絶やさず、私たちに優しく接してくれました。日常生活の中で、不安になったり分からないことがあったりしても、いつも私たちを支えてくれた卒業生の皆さんは、あこがれの存在であり、皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、そんな先輩方から教わったことを思い出して、名立中学校の伝統を引き継ぎながら、笑顔を忘れず、より一層学校生活を充実させるために、在校生一同努力していきます。

卒業生は、名立中学校での三年間の学校生活を終え、夢に向かって一步を踏み出そうとしています。新しいことを始めたり、新しい環境に進むとき、不安になったりつらい思いをしたりすることもあると思います。

ですが、皆さんには大切な仲間がいます。今まで、一緒に困難を乗り越え、多くの時間を共に過ごしてきた仲間を思い出してください。そして、新しい場所で新しい仲間と共に、素晴らしい人生を歩まれることを、在校生一同願っています。

名残惜しいですが、お別れの時が来ました。卒業生の皆さんとお別れするのは、とても悲しく、寂しい気持ちでいっぱいです。ですが、私たちは皆さんと共に過ごしたかけがえのない時間を忘れません。最後に、皆さんのより一層のご活躍を名立中学校から応援しています。今まで本当にありがとうございました。

旅立ちの言葉 卒業生代表 生徒会正・副会長



肌寒い風が吹きつつも、温かい日差しが私たちを照らす今日のこの良き日に、私たち三年生十三名は無事に卒業式を迎えることができました。

ほのかな春の陽気を感じると、自然と入学式の頃が思い出されます。三年前の春、真新しい制服に照れながらも、少し大人になれたような気がした入学式。五十分授業や部活動など、最初の頃は新しいことに慣れるのに精いっぱいでした。

初めての部活動。新型コロナウイルスの流行により、思うように活動することができませんでした。そんな中、部活動では先輩たちが「絶対勝つ」という強い意志をもって練習していた姿が目には焼き付いています。先輩の姿を見て、僕たちもこうなりたいと強く思いました。

先輩ができた二年生。相変わらずいろいろな制限がありましたが、僕たちはくじけることなく、勉強や部活動に力を入れてきました。二年生の夏は職場体験をしました。三日間という短い期間でしたが、働くことの大変さや礼儀の大切さなどを、身をもって体験することができました。二年生になって、初めての音楽祭がありました。二年生の時の合唱曲を覚えていますか。「花は咲く」でした。東日本大震災の復興ソングです。緊張していたものの、恥ずかしがりながら花を持って歌ったのは今でも良い思い出です。この学年は、一つの行事に対する熱量がものすごく、改めてみんなの強さを感じました。

この三年間、行動制限があり、思うようにできなかったことが多かったです。しかし、そんな中でも助けてくれたクラスメイト、先輩方、後輩のみんな、先生方、保護者のみなさまには本当に感謝しています。できないことがあってもマイナスの方に向かわず、制限の中でも、少しでもプラスに向かうことができたのは、みなさんのおかげです。

僕たちは自分らしく精一杯頑張っていきます。本当にありがとうございました。

三年生。四月、私たちは名立中学校の最高学年になりました。学校を引っ張っていく学年になり、不安を抱きながらスタートしました。私たちは、「一人一人が輝ける学校」を目標にしました。そのためにどんな活動をしたら良いのか、三年生が中心となって生徒会活動をしてきました。また、すべての行事に「最後の」という言葉がつくことで、一日一日を悔いのないように噛みしめて過ごさなければならぬと思いました。

修学旅行。一年生の時から準備を進めていた、中学校生活一番の行事。東日本大震災について学習してきた私たちは、東北に行きました。実際に被害にあった場所に行って、お話を聞き、自分達の肌で自然災害の恐ろしさや防災の大切さを感じることができました。語り部の方のお話を聞いて、自分の命も、周りの人の命も大切にしよう、自分に与えられた命を精一杯生きていこう、心に強く感じたことを、私は決して忘れ

ません。

六月。野球部とバレーボール部にとって、泣いても笑っても最後の大会でした。辛い時にも一緒に頑張ってくれる仲間や、試合の応援に来てくれた家族、厳しくも優しく指導してくださった先生方のおかげで、悔いなく引退することができました。本当にありがとうございました。

九月。体育祭。私たち三年生はこれまでの応援とは違い、みんなが親しみやすい応援にしよう決めました。短い期間で完成させるのは大変でしたが、相談したり、時には軍を越えて協力したりして、とても良い応援を作り上げました。当日は、どの競技も白熱し、最高の体育祭になりました。体育祭が終わった後の達成感は、これまでの苦労を忘れるほど大きかったです。私だけではなく、三年生全員が感じたことでしょう。

十月。音楽祭。合唱曲は「あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ」でした。この曲の歌詞は、いろいろな経験を通して、最後は輝かしい未来を自分たちの力で「たぐりよせよう」とする子供と、その旅立ちを見送る大人からの目線で書かれていることを音楽の授業で学びました。卒業を迎える今、この歌詞を振り返って、まさに自分たちのことだなと思います。素晴らしい合唱曲を歌うことができました。

三年生の学級目標は「学校がんばりねんかん」です。すべてのことに全力で取り組むことができ、学級目標を達成することができました。

三月。いよいよ私たちは卒業を迎えます。在校生のみなさん、名立中学校をみなさんに託します。一年生のみなさん。四月からは新入生が入学し、先輩になりますね。今まで先輩からしてもらったように、優しく楽しい雰囲気であげてくださいね。二年生のみなさん。二年生の元気なパワーで名立中をより明るくしてください。二年生ならきっと大丈夫です。応援しています。

今まで優しく、時に厳しく指導してくださった先生方。三年間でたくさんのことを教えていただきました。授業はもちろんですが、今は何気ない休み時間の会話でさえ、思い出すと胸がじーんとしてきます。

いつも温かく見守ってくれた家族のみんな。たくさん困らせてしまっでごめんなさい。これからもお世話になりますが、よろしくお願いします。

そして、長い時間、一緒に過ごし、たくさんの思い出をくれた仲間たち。今日を最後に、みんなと学校生活を送ることができなくなると思うと寂しくて仕方ありません。

全校の前でもひるむことなく、大きな声で堂々と発表できるTさん。

普段の冷静沈着な性格とはうってかわって、体育祭では団長として驚異的なリーダーシップを発揮したSさん。

学年関係なく、先生もふくめ誰とでも仲良くなれる友達づくりの天才Rさん。

クラスのムードメーカーとして、たくさんの笑顔の花を咲かせてくれたYさん。

その積極性とリーダーシップで、みんなに声を掛け続け、様々な活動でクラスの中心に立ってくれたAさん。



クラスのお兄さんの存在で、困ったときはいつも助けてくれた S さん。
何にでも興味津々で、僕と熱く語り合った S さん。
普段は優しくおっとりしているのに、得意な分野ではキレキレの判断力をみせる S さん。
明るくて、活発で、副会長として多くの意見を出したり、アドバイスをして支えてくれた Y さん。
勉強でも運動でも輝けて、なおかつ三年間学級委員長としてクラスをリードした S さん。
朗らかな人柄と可愛いイラストでクラスを和ませてくれた K さん。
話し合いや、道德の授業、生徒会の窓でいつもハツとする発言をする、クラスの縁の下で力持ちの K さん。

みんなと一緒にだったからこそ、僕は勉強に、部活に、生徒会活動に精一杯取り組むことができました。
僕たちはパズルのピースのように、一人一人、形は違うけれど、それぞれの個性を生かして、この三年間最高のパズルを完成させることができました。また、みんなの思いやりのおかげで、平和なピースな毎日を過ごせました。

これからは一人一人が自分自身が選んだ道を歩いていくことになります。その中で、大きな壁にぶつかることもあると思います。その時は、僕たちが過ごしたかけがえのない時間を、支えてくれた在校生や先生方の顔を思い出して頑張ります。

最後に、たくさんの経験をさせてくれた名立中学校、素敵な卒業式を開いてくださった皆様、ありがとうございます。ここにいる卒業生一同、今日皆様からいただいた祝福の声を強く抱いて、大空に向かってはばたくことを誓い、答辞とさせていただきます。

同窓会入会式

卒業を控えた3月2日(木)、同窓会入会式を行いました。
同窓会長様からお出でいただき、入会のお祝いと激励の言葉をいただきました。校長挨拶、会則の説明のあと、第44回卒業生の同窓会学年代表理事の2名が「名立中同窓生の名に恥じぬよう、4月から始まる新しい学校生活に全力で取り組むことを誓います」と誓いの言葉を述べ、伝統ある名立中学校同窓生の仲間入りをしました。同窓生の皆様、これからよろしくお願いいたします。



2学年修学旅行

3月14日(火)～16日(木)の3日間、2年生は関西方面に修学旅行に行ってきました。
初日は関ヶ原古戦場記念館を訪れ、また京都で友禅染め体験を行いました。2日目は清水寺、金閣寺等の観光名所を回り、大阪に宿泊して通天閣付近を散策しました。最終日のメインはUSJで、アトラクションやお土産購入、また記念撮影を行い思い出づくりをしました。3日間好天に恵まれ、またコロナの対応も緩和の傾向になったことで、どの見学場所も多くの人で賑わっていました。最終日の学校到着が少し遅れてしまいましたが、3日間を通してけがや大きく体調を崩す生徒等もなく、関西を満喫して帰って来ることができました。各ご家庭ではお土産話に花が咲いたことと思います。修学旅行の実施にあたり、保護者の皆様からは旅行の費用や用具等のご準備をいただき、また送迎等にも御協力くださりありがとうございました。



宝田小学校・名立中学校後援会の皆様

～ 今年度も温かいご支援をありがとうございました ～

令和4年度も間もなく終わり、新年度を迎えようとしています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中ではありましたが、感染防止の対策を丁寧に行い、活動の形態を工夫することで、徐々に各種の行事を行うことができるようになってきた1年でした。観客の入場制限はあったものの、部活動の地区大会、新人大会は通常通り実施され、練習の成果を発揮することができました。卒業した3年生は4月に東北地方、2年生は3月に関西方面へ2泊3日で修学旅行に行くことができ、体育祭、音楽祭も保護者の皆様から見ていただくことができました。名立まつりのステージや名立駅伝など地域行事にも参加できるようになりました。今後、コロナウイルスの対応が緩和されていく中で、地域の皆様から中学生の姿をもっといろいろな場面で見ていただくことができるようになることを期待をしています。コロナ禍においても生徒たちが充実した学校生活を送ることができたのは、多くの場面で保護者の皆様、地域の方々から支えていただいたおかげです。心より感謝申し上げます。

3月20日(月)に宝田小学校・名立中学校後援会の第2回理事会が行われ、今年度の事業報告、会計報告と次年度の事業計画、役員選出について提案させていただき、ご承認をいただきました。

今年度、後援会の役員の皆様のご尽力と、地域の皆様方の温かいご支援により、後援会費として、総額726,970円のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。名立中学校では、部活動の大会参加費や交通費、備品の購入費をはじめとして、講演会の講師謝礼、各種行事の補助等、様々な場面で有効に活用させていただきました。

新年度も、小中の連携をさらに深め、目指す児童・生徒像を共有しながら9年間を見通した教育活動を展開してまいります。また、職場体験や地域貢献など地域の皆様と関わることでできる活動を通して、豊かな心の育成に努めてまいります。一年間、ありがとうございました。今後とも、名立中学校の教育活動に、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

